

宏は「」を考える!

「水の館」を含む手賀沼

親水広場の移譲問題
(千葉県からの我孫子市が譲り受ける問題)

千葉県立水の館移譲問題(含む手賀沼親水広場)は平成十七年四月から千葉県から我孫子市に対し有償譲渡の話を持ちかけてきたことから始まり、その後約十年間の話し合いを経て、移譲に向けた話し合いが今、大詰めを迎えている。

一月初旬に開かれた環境都市常任委員会勉強会で、①手賀沼親水広場等活用計画、②農業拠点施設検討資料、③千葉県との諸手続き・スケジュール等の説明を受けた。提出された資料によると活用計画等は今後、一月下旬から二月下旬まで市民にパブリックコメントが実施され、市民から多くの意見を聞くようになっているが、現実は市民に意見を聞く前に、千葉県とは移譲に伴う基本事項等の確認書の取り交わしを一月下旬に我孫子市は行われるスケジュールとなっている。何の為に市民に対するパブリックコメントなのか、疑問に感じた。

設は手賀沼の水環境保全啓発を主目的として、後退してはいる。また水の館本体施設の約30%は農産物直売所、加工所、飲食施設等に利用することになって、農事組合法人「あびべじ」の組織の強化策、新たな農産物を出荷してくれる農家の確保等の目的が、直売所機能に必要不可欠な安全な道路(アクセス)の整備や駐車場の確保など未だ十分であることなど、勉強会では千葉県側のスケジュールに沿って、市が懸命に千葉県のペースに合わせる。弱腰の姿勢が垣間見える。

このままでは見切り発車で移譲を受ける形になってしまふ。三月の当初予算を審議する中で主要な争点になるものと思われる。十一月議会 印南の発言・視点

これで良いのか、我孫子市は!

我孫子市字菱田地先つくし野七丁目、ダイヤパレスマンションの裏地区の農地転用、埋め立て造成計画

昨年十月の我孫子市農業委員会で議案として提出された「我孫子市菱田地先」の農地転用議案が未だ、継続審議となつてい。なぜ継続になつていのか。

この議案を調査すると、農地法で優良農地にするための農地転用は農業委員会が可否の許可権を持つているが、今回の議案は優良農地にするための盛土と、は到底考えられず(異常な盛土の高さ等)、単に開発・建設により発生した残土を農地法の名を借りて、農地に盛土して産廃処理のごとく残土処分するものと考えられる。そのような行為を行うことで周辺の住宅に水害や地盤沈下など、新たな公害の発生する恐れさえ出ている。

私は所管の環境都市常任委員会で、この問題を取り上げ、農業委員会は農地法により、許可の可否を決めることは、農地法の要件や手続きに問題がない限り、法的な責任はないと考えて

いるのかも知れないが、その行為、残土処分・盛土によって周辺住宅に被害が生じたことを予測していながら許可した場合、大きな問題となる恐れはあるのではないかと指摘。近隣住民に被害が及ばないよう新たな要綱・規則、条例の制定など検討・整備するべきである。農業委員会は市長部局の治水課も含めて、全庁的に全国の事例を調査し、各種法令との整合など調査研究する必要があると慎重な対応を求めた。

このような問題が起こる背景は農業そのものが持つ、日本農業が置かれてい。農業を継続するのと必要経営者の確保が難しく、農家の跡取りがい。また、農業を継続しても営的に厳しい実態を考えると盛土を無料で農地に行つてくれる開発・建設残土を処分する業者の存在は農家にとって渡りに船のありがたい存在。業者も産廃を処分場に持ち込む際、支払うべき処分費を払わないで済んでしまふ。共にWIN-WINの関係、ニュービジネスとして成り立つ形となる。しかし、これでは到底、優良農地になるはずがない。「農地法とまっくら」、ここに大きな問題が潜んでいる。



平和台雑感

◆我孫子市内を見渡すと相変わらぬ東部の人口格差が顕著となり、成田線沿線の過疎化が進んでいる。人口減少も東葛地区で唯一、減少傾向が止まらず、高齢化率も二十七・一%と最も高い。大企業の少ない我が街は個人市民税の大幅な減少が予想される。人口のバランスを考え、強く求められてきている。◆そんな中、布佐平和台にシニアサロン「かえで」が一月二十八日にスタートする。一人暮らしの高齢者の方が増える中「かえで」は住み慣れた布佐平和台で、元気に安心して楽しむことができ、元気に人と人とのつながりが深まることを狙いにしていく。◆この毎月の一回、布佐南隣センターで開催されて、高齢者の皆さ

ある。次点の海津氏が告示の半人しか投票に行かなかった。この月前に出馬表明し、出遅れたことも原因の一つだが、その他、市長選挙の争点が市民に十分に理解が得られなかったことなどが考えられる。人口減少が著しい我が街は東葛地区で最も高い高齢化率を下げるための若い世代の誘致など人口増の施策・少子高齢化対策の具体策の急務である。また、成田線沿線の活性化、液状化被害を受けた布佐東部地区の復興、高濃度焼却灰の一時保管問題、指定廃棄物の汚泥への対応など、問題は山積している。選挙の結果で白票、無効票の多さも気になる。選挙に對する有権者の動き、行為である。投票率の要因をつくっているのは議会も責任の一端があるもの。私は理解している。今回の市議員補欠選挙(定員二名)が立候補者同数で無投票になった。その要因も現在の議会のあり方や一部の公党の責任もある。昨日年末の十二月議会、議員発議で可決・成立した『我孫子市議会基本条例』は二元代表制を担う議会として、どうしても避けられない必要条項である。議員間討議を積極的に行うことや議会報告会を年一回以上開催すること、義務付けられた開催後、市議会の見える化、透明度を増す意味で大きなインパクトをこの与える。四月の議会実施後、この条項を基に、市民の行を模索すべく、市民の

身近でわかりやすい市議会を指して、議会改革に取り組んでいく。今年、十一月の市議会議員改選までに、議会報告会を必ず行うことや現在の意見に基づき、市議の定数も市民の意見を基に論議をしっかりと行うことが必要になった。◆一月十九日に柏市は、一月二十六日から手賀沼に一時保管している汚染焼却灰を持ち帰るための作業を行うと発表した。既に松戸市は約五十二トンの持ち帰りを完了し、この搬出作業が進められている。これで見えてきたが、肝心の国の最終処分場は候補地すら決まっていらない。仮に県内に設置するとは難航が予想される。◆一刻も早い解決に努めてほしい。◆共通の願いは、国は一刻も早くカウキスキューメーカーとスコップを創業者とスコップメーカーの連続ドラマ『マッサン』が好調である。かくいう私も、マッサンには、何度テレビの前で泣いたことか。こんな涙を流す連ドラは初めてである。時代は戦前に対する偏見が強い時代、異人に対しての偏見が強い時代、異地に異人に対する偏見が強い時代、異女には、現代でも理不尽な差別がある。苦勞があっても、理不尽な差別を追い求める。重たい夫婦の連想の酒を初志貫徹、また夫婦の愛は、初志貫徹、また夫婦の最大の理由は、徹底的に、夫婦の

印南 宏後援会
〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)
Tel 7184-2860
印南 宏 自宅
布佐平和台7-1-18
Tel 7189-1598
E-メール hiroinabiko@kca.biglobe.ne.jp
HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/
ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/



創業者の『大将』の器の大きさに感銘。一介の奉公人から身を起こした男、宣伝を重視し、口癖の「やってみなはれ」は何と、やる気を起こさせてくれる言葉である。どんなことでも初めて行う事業・仕事は苦難がつきもの、私は日本酒党なのだが、このドラマをみてみるとウキスキーが飲んでみたくなる。今夜はホットウキスキーで一献。
宏